

知的障害教育における学習評価から授業改善につなげる フレームワークに関する研究

千葉県総合教育センター
特別支援教育部
研究指導主事 廣瀬 哲也
研究指導主事 神田 慶嗣
指導主事 山尾 昌平
研究指導主事 稲村 由則

1 主題設定の理由

特別支援教育部では、令和2年度から2年計画で、「知的障害教育における各教科等の指導目標の設定及び学習評価を行うためのツールの開発」というテーマで研究に取り組んだ。

これは「各教科等を合わせた指導（以下、合わせた指導）を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要となるが、その意識が薄く、指導計画や学習評価等が曖昧になっている」という点が課題であったことからである。

この研究の成果としてデジタルコンテンツをパッケージ化したツール（以下、ツール）を開発した。構成内容としては「各教科等目標設定シート」や「自立活動目標設定シート」「各教科等を合わせた指導教科等別シート」「各教科等を合わせた指導単元別シート」「個別の指導計画シート」等となっており、学習指導要領の根拠に則って各教科等の指導目標及び指導内容を設定した上で学習評価をすることができるようにした。知的障害教育の経験が浅い教員が教育課程の理解を深めたり、指導から評価までを行ったりする助けとなるだけでなく、知的障害教育に携わる全ての教員が、学習指導要領に則った考え方を確認したり、これまでの指導を振り返ったりするためのツールとしても活用できることが検証された。

平成29年改訂特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の総則では、学習評価の目的等について「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること」と、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性が明示された。

これらのことから、知的障害教育課程において、学習評価を授業改善につなげる手続としてのフレームワークを確立し、児童生徒の知的障害の学習状況に合わせ、社会自立や職業自立に向けて資質・能力を向上させることのできる教育の充実を図りたい。

2 研究の目的

知的障害教育課程における学習評価の充実を図り、授業改善につなげることができる手続としてのフレームワークを確立し授業の充実を図ることで、知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級等で有効活用できるようにする。

3 研究計画

本研究は、令和4年度から令和5年度までの2年計画とする。

令和4年度 (1年次)	<ul style="list-style-type: none">・知的障害特別支援学校及び小・中・義務教育学校の知的障害特別支援学級への質問紙調査を実施する。・調査結果の分析を基にフレームワーク(試案)を作成する。・調査研究協力員(以下、「協力員」という。)によるフレームワーク(試案)の活用や調査研究協力員会議を通して意見等を収集する。・講師、協力員の意見等を踏まえ、フレームワーク(試案)の改善等を行いフレームワーク(修正案)を作成する。
令和5年度 (2年次)	<ul style="list-style-type: none">・協力員によるフレームワーク(修正案)の活用や調査研究協力員会議を通して有効性を検証する。・フレームワークを完成させ、千葉県総合教育センターのWebサイトにて公開する。

4 研究概要

本研究は、講師による指導助言や調査研究協力員からの意見、質問紙調査の結果の分析により、知的障害教育の教育課程における課題を明らかにし、その課題解決に向けて学習評価を授業改善につなげる手続としてのフレームワークの開発を目的としている。

また、フレームワークの有効性や活用法等を千葉県総合教育センターWebサイトに公開することにより、県内の知的障害特別支援学校や知的障害特別支援学級で有効活用できるようにする。

なお、今年度の講師、調査研究協力員は以下のとおりである。

(1) 講師

筑波大学 人間系障害科学域 准教授 米田 宏樹

(2) 調査研究協力員

県教育庁教育振興部特別支援教育課	指導主事	小西 孝政
県立印旛特別支援学校	教諭	園原 太郎
県立東金特別支援学校	教諭	荒木 誠
県立槇の実特別支援学校	教諭	石井 夏江
柏市立田中北小学校	教諭	鷹取 哲史
浦安市立浦安中学校	教諭	三宅 亮
成田市立神宮寺小学校	教諭	森 英則
八街市立八街南中学校	教諭	石垣 晴美
御宿町立御宿小学校	教諭	仲佐 仁志
袖ヶ浦市立根形中学校	教諭	佐久間 美奈子

(3) 調査研究協力校 9校(協力員の所属校が兼ねる)

5 本年度の研究経過

(1) 調査研究協力員会議

第1回調査研究協力員会議(令和4年7月1日)

研究概要、今年度の研究計画について

第2回調査研究協力員会議(令和4年11月25日)

質問紙調査結果報告、フレームワーク(試案)提案

第3回調査研究協力員会議（令和5年2月10日）

フレームワーク（修正案）提案、次年度の研究計画について

(2) 質問紙調査の実施と分析

県内知的障害特別支援学校の小学部・中学部及び県内小学校、中学校、義務教育学校の知的障害特別支援学級を対象に質問紙調査を実施し、結果を分析した。

(3) フレームワークの作成

調査研究協力員会議等における意見及び質問紙調査結果の分析を基に、フレームワーク（試案）を作成した。

6 本年度の研究成果

質問紙調査の結果から、知的障害教育の教育課程等に関する課題を整理することができた。併せて、その課題解決のためのフレームワーク（試案）を作成した。

なお、フレームワークの完成は令和5年度末を予定している。

(1) 質問紙調査について

ア 調査名

「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントを意識した学習評価と授業づくりに関する調査」

イ 目的

県内知的障害特別支援学校の小学部・中学部及び県内小学校、中学校、義務教育学校の知的障害特別支援学級における教育課程に関する課題を明らかにするとともに、その解決方法の一つとしてのフレームワーク開発のための基礎資料とする。

ウ 範囲

(ア) 千葉県内の県立知的障害特別支援学校

(イ) 千葉県内の市町村立知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級を設置する小学校、中学校、義務教育学校（千葉市を除く）

エ 調査対象

県内知的障害特別支援学校の小学部・中学部及び小学校、中学校、義務教育学校の知的障害特別支援学級の学級担任の中から抽出する。抽出数については、信頼レベル95%、許容誤差±5%を満たすようにする。抽出の方法は、以下のとおりとする。

(ア) 県立知的障害特別支援学校

特別支援学校の小学部・中学部の全学級を対象とし、各学級から1名（原則として学級担任を対象）とする。

(イ) 市立知的障害特別支援学校及び知的障害特別支援学級

市立特別支援学校については、県立特別支援学校に準ずる。また、知的障害特別支援学級が設置されている小学校・中学校・義務教育学校については、各教育事務所管内から、調査対象となる市町村を決定する。

a 特別支援学校

特別支援学校の小学部・中学部の全学級を対象とし、各学級から1名（原則として学級担任を対象）とする。

b 知的障害特別支援学級

知的障害特別支援学級で学級担任をしている教員の中から1名を対象とする。複数の知的障害特別支援学級を設置している場合は、その中の代表者1名（1校1学級）とする。

オ 内容

調査対象者に対し、教育課程上の現状（指導目標の設定、指導計画の作成、学習評価に基づく授業改善）について問う。

カ 調査方法

質問紙調査（郵送による回答返却）

4件法 「非常に当てはまる」、「だいたい当てはまる」、「あまり当てはまらない」、「全く当てはまらない」

キ 期間

令和4年8月22日（月）から9月30日（金）まで

(2) 調査結果について

※小学校・中学校特別支援学級（以下、それぞれ「小学校」、「中学校」）
 ※知的障害特別支援学校小学部・中学部（以下、それぞれ「特支（小）」、「特支（中）」）

ア 回収率

(ア) 総回収率

95.2%（総回答数 n=958）

(イ) 校種別回答率

学校種	回収率（回答数）
小学校	90.8%（238）
中学校	82.6%（114）
特支（小）	100%（378）
特支（中）	100%（228）

イ 回答者の年代・知的障害教育の経験年数

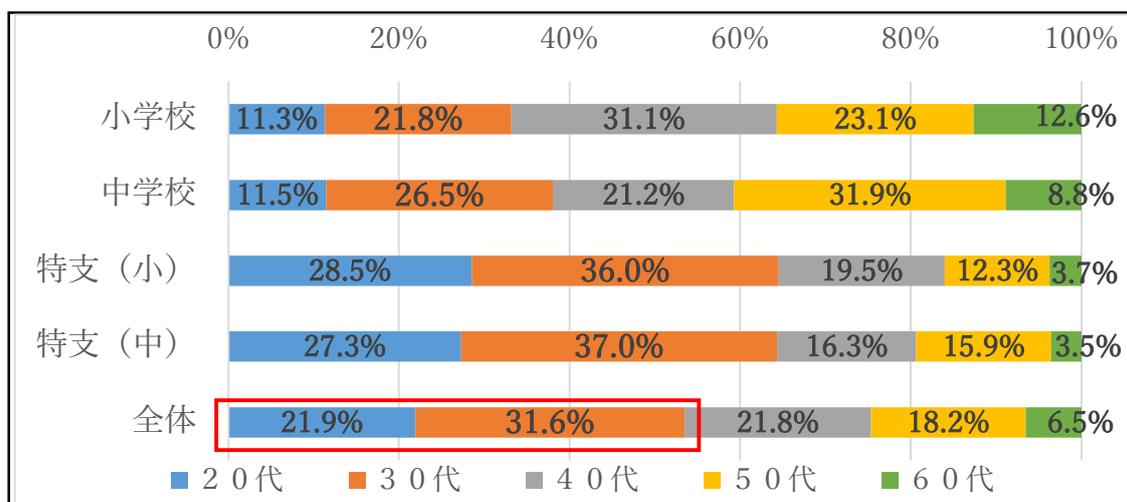


図1 年代構成

n=958

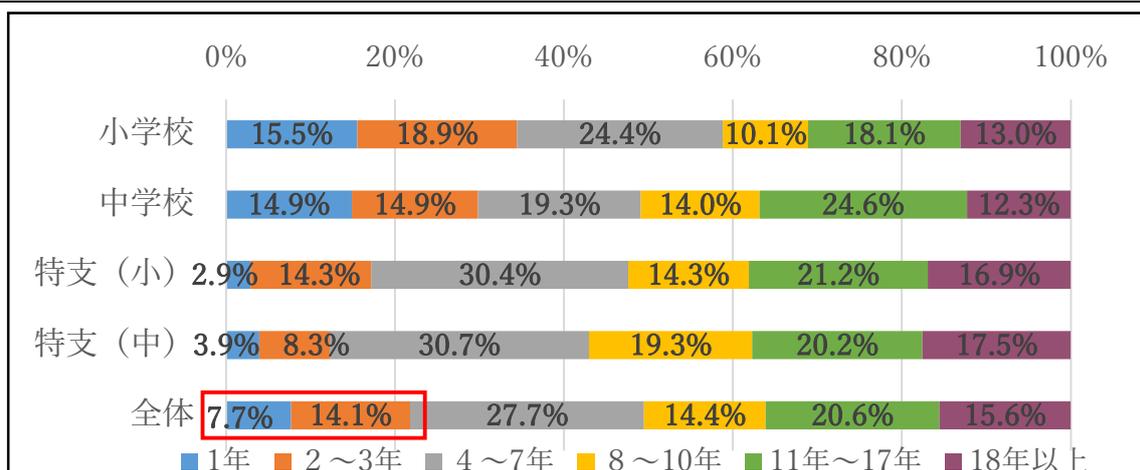


図2 知的障害の経験年数

n=958

質問紙調査回答者の年代の傾向、知的障害教育の経験年数の傾向は、(図1)、(図2)のとおりである。学校種、学部により傾向は異なるが、様々な年代、経験年数の教員から回答を得ることができた。

年代構成では、20代、30代の割合が全体で53.5%と半数を超えていた。学校種別では、小学校33.1%、中学校38%に対し、特支(小)は64.5%、特支(中)は64.3%であった。特別支援学校では3人に2人が20代、30代であり、若年層の割合に違いが見られた(図1)。

知的障害教育の経験年数では、3年以下の教員が全体では21.8%であった。学校種別では、特支(小)17.2%、特支(中)12.2%に対し、小学校は34.4%、中学校は29.8%であった。小学校、中学校では経験年数の浅い教員が3人に1人程度おり、学習評価や授業改善等、知的障害の教育課程を実践する上で、課題等を抱えている教員が多数存在することが考えられる結果であった(図2)。

ウ 各校におけるカリキュラム・マネジメントの実態

カリキュラム・マネジメントについて13の質問で回答を求めた。

- (ア) 13の質問項目の中で「非常に当てはまる」、「だいたい当てはまる」の回答率が高かった上位三つは次のとおりであった(表1)、(表2)、(表3)。

Ⅱ-問5 「児童生徒の実態や障害特性に応じて、授業内容を検討して計画している。」

全体：99.2% 小・中学校：98.5% 特別支援学校：99.5%

表1

Ⅱ-問6 「児童生徒の実態や障害特性に応じて、手立てを講じて指導している。」

全体：99.1% 小・中学校：98.6% 特別支援学校：99.3%

表2

Ⅱ-問12 「授業後に目標設定や手立てなどが適切であったか振り返りを行い、次の授業に反映させている。」

全体：96.5% 小・中学校：96.3% 特別支援学校：96.5%

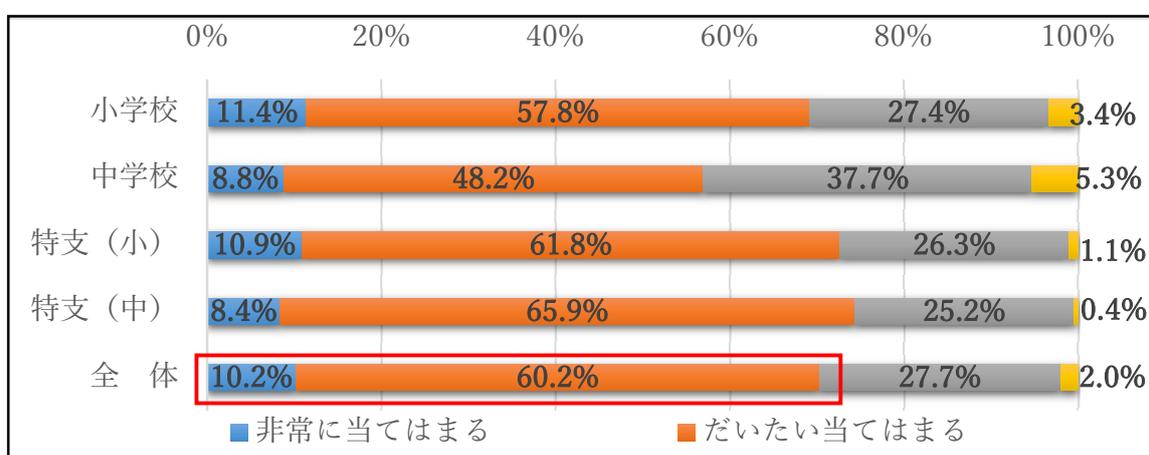
表3

この三つの質問項目は、いずれも全体、学校種ともに 96%を超える高い割合であった。

児童生徒一人一人の実態や障害特性等を踏まえた授業内容の計画や手立てを講じており、個別の指導計画等の有効活用等がうかがえる結果であった(表1)、(表2)。また、96%以上の教員が、目標設定や手立て等について振り返りを行い、次の授業に反映させていることも明確となった(表3)。

これらの結果から、フレームワークの機能として、授業者の振り返りとともに、併せて学習評価を充実させ、授業者の振り返りと学習評価の両輪で授業改善につなげることができるよう、工夫していく必要があると考える。

(イ) 13の質問項目の中で「非常に当てはまる」、「だいたい当てはまる」の回答率が低かった下位三つは次のとおりであった(図3)、(図4)、(図5)。



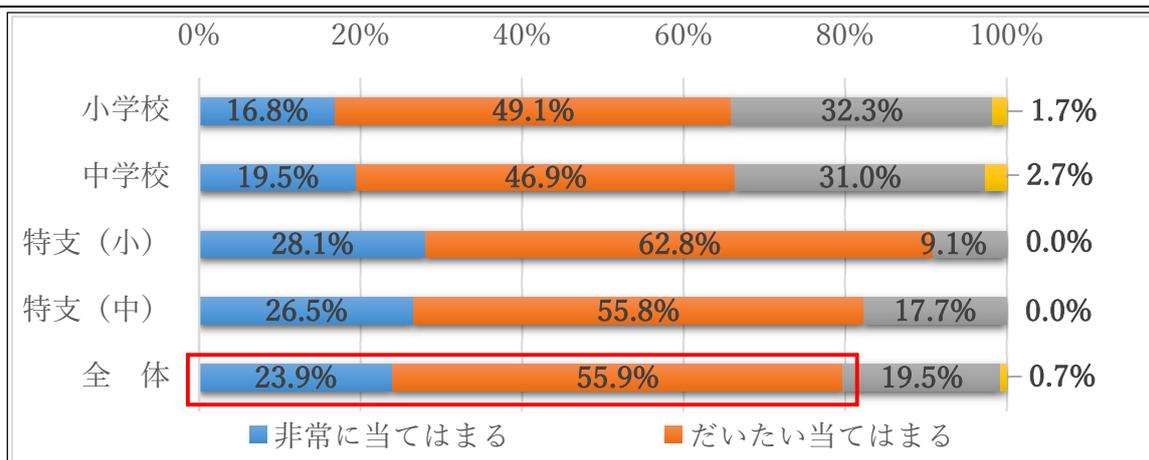
n=958

図3 II-問7 「3観点『知識・技能』、『思考・判断・表現』、『主体的に学習に取り組む態度』に沿った各教科のまとめごとの評価規準、設定した目標に対する評価基準を設けて評価している。」

全体では70.4%で、カリキュラム・マネジメントについて回答を求めた13の質問項目の中で最も低い割合であった。

育成を目指す資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に基づいた目標設定、内容等を踏まえ、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に向かう力」の3観点に基づいて評価する指導と評価の一体化について、一定の割合で実践されているものの十分とは言えず、授業改善に向けた課題の一つであることが示唆された。

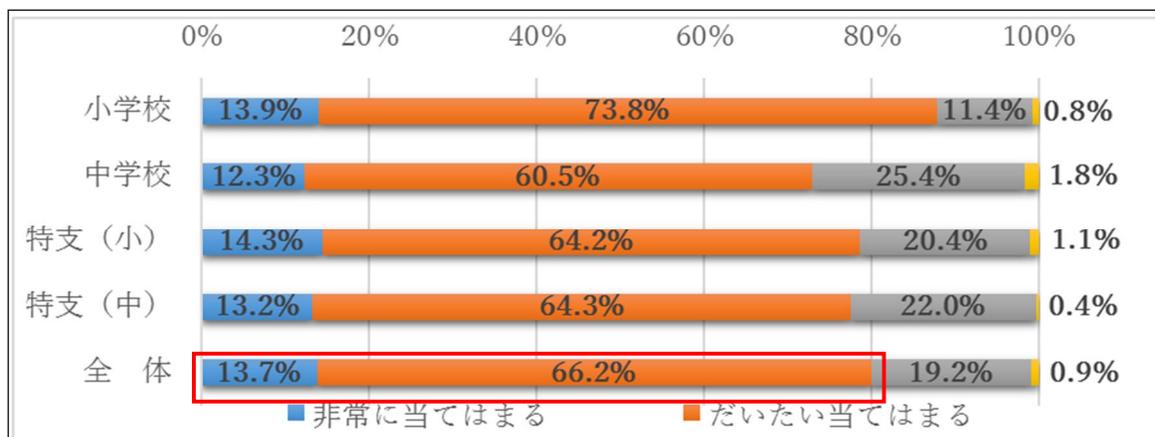
これらの結果から、フレームワークの機能として育成を目指す資質・能力の三つの柱と3観点による指導と評価の一体化を図れるものが必要であると考える。



n = 958

図4 II-問13 「学習評価、単元の振り返り、授業改善について教職員間で共通理解する機会を確保している。」

全体では79.8%で、図3について2番目に低い割合であった(図4)。学校種別では、特支(小)90.9%、特支(中)82.3%に対し、小学校は65.9%、中学校は66.4%であり、職員間で共通理解するための機会の確保に大きな違いが見られる結果であった。これは、質問項目I-問5「回答者を含めて担当する学級は、何名で指導、支援を行っていますか。」において、2名以上と回答した割合が、特支(小)94.2%、特支(中)94.7%で、いずれも90%を超えているが、小学校は27%、中学校は45.6%であったことに関連しているものと思われる。



n = 958

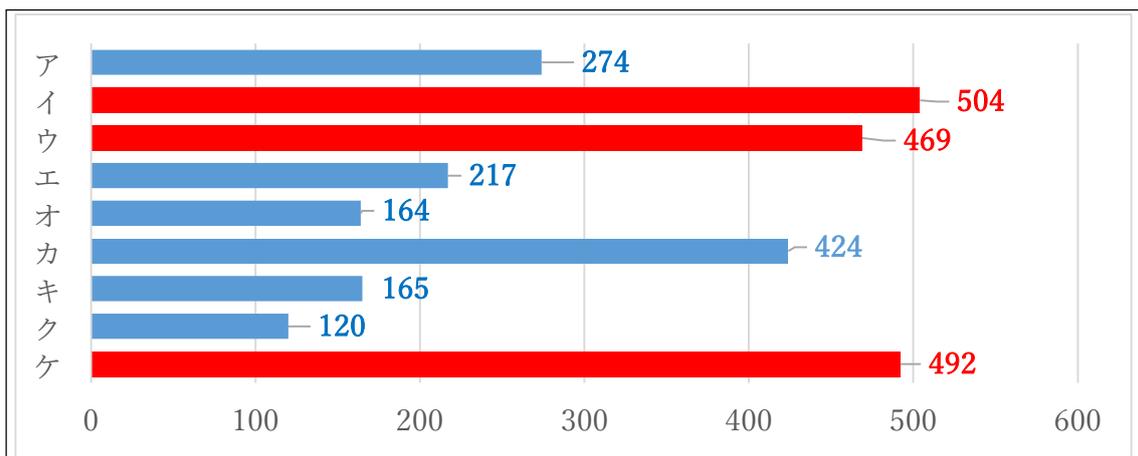
図5 II-問8 「授業で扱う教育内容の目標達成状況が分かるように、一人一人の児童生徒の学習状況を単元ごとに記録するなどして、評価している。」

全体では、79.9%で、図4について3番目に低い割合であった(図5)。どの学校種においても児童生徒の生活や学習の様子等を記録していると思われるが目標の達成状況等につながる記録としては必ずしも十分ではないことが示唆された。これらの結果から、フレームワークの機能として、学習状況等の記録が授業等における児童生徒一人一人の目標及び学習集団の目標に関連付けられるようにする必要があると考える。

(ウ) 学習評価から授業改善につなげるにあたって必要だと思われることについて優先度の高いもの三つを選択してもらった。

【選択項目】(三つ選択)

- ア：単元を計画する上で、PDCAサイクルが具体的に示されるとよい。
- イ：単元を計画する上で、一人一人の児童生徒の単元目標と個別の指導計画の目標のつながりが分かるとよい。
- ウ：児童生徒の授業での様子や経過が整理、記録できるとよい。
- エ：単元目標及び計画を振り返り、単元の評価点と改善点がまとめられるとよい。
- オ：単元目標及び計画に関する評価点、改善点と以降の単元の関連が整理できるとよい。
- カ：単元における支援や手立てを振り返り、評価点や改善点と以降の単元の関連が整理できるとよい。
- キ：授業ごとに計画を振り返り、授業の評価点と改善点がまとめられるとよい。
- ク：毎授業の評価点や改善点と以降の授業の関連が整理できるとよい。
- ケ：授業における支援や手立てを振り返り、評価点や改善点と以降の授業の関連が整理できるとよい。



n=958

図6 II-問18 「学習評価から授業改善につなげるにあたって必要だと思われることについて優先度の高いものを三つ選択してください。」

この質問項目は複数回答としたため、回答数をグラフに示している。結果は(図6)のとおりであった。

「単元目標と個別の指導計画の目標のつながり」、「授業(単元)の評価点改善点と以降の授業の関連」、「授業の様子や経過の整理と記録」等が多数を占めた。特に学習評価と改善点や授業の様子等の記録は、学習評価の充実と授業改善につながる重要な要素の一つである。

これらの結果から、フレームワークの機能として、評価点や改善点と次の授業へのつながりや学習評価等につながる記録を意識できるものが必要であると考える。

(3) フレームワーク（試案）について

「5(2)の質問紙調査結果について」を踏まえ、フレームワーク（試案）を作成し、第2回調査研究協力員会議で提案した。
概要等は次のとおりである（表7）、（図8）。

シート	各シートの概要
1	○各教科等における児童生徒一人一人の実態を把握
2	○各単元における児童生徒一人一人の実態、三つの柱に基づいた目標、3観点に基づいた評価規準（基準）を設定 ○学習評価・授業者の振り返りの記録
3	○各単元における学習集団の実態、三つの柱に基づいた目標、3観点に基づいた評価規準を設定 ○学習状況の評価・授業者の振り返り、課題・改善を要する点の記録
4	○単元全体における学習状況の評価、授業者の振り返り、課題・改善を要する点の記録（他シートの内容が反映） ⇨学習評価から授業改善へ

表7 フレームワーク（試案）概要

※上記表7のシート1の実態把握を基に、シート2（個別）、シート3（学習集団）を往来しながら学習評価し、シート4でまとまった課題等を踏まえ、授業改善につなげる。

教科等		期間	
単元（題材）名			
単元（題材）の内容			
手立て、指導上の留意点等			
<input type="checkbox"/> 教材・教員	<input type="checkbox"/> ICT活用		
<input type="checkbox"/> 道具・補助具	<input type="checkbox"/> 指導形態		
<input type="checkbox"/> 場の設定	<input type="checkbox"/> 指導内容		
<input type="checkbox"/> 高懸掛け	<input type="checkbox"/> 人員		
単元（題材）全体を振り返って			
学習状況の評価・授業者の振り返り等			
課題・改善を要する点			
単元（題材）の評価（○十分である △検討が必要） ※必要に応じて下段にメモを入力			
時期	時数	単元構成	学習グループ
			教材・教員
			手立て

シート3の内容が反映される

課題・改善点が明確になる

図8 シート4の一部を掲載

7 まとめ

(1) 質問紙調査結果の分析から

今回の調査結果から、知的障害教育に携わる教員の年齢構成は、20～30代の若年層の割合が全体で53.5%と半数以上を占めている。特に特別支援学校においては、64.5%にのぼり約3人に2人が20～30代であることが示された。また、知的障害教育の経験年数は、3年以下の割合が全体で21.8%であった。特別支援学校は15.3%であるが、小学校、中学校では、32.9%と3人に1人が経験の浅い教員であった。7年以下の教員になると、全体で49.5%と半数を占め、小学校においては、58.8%と約6割が7年以下の比較的経験の浅い教職員である現状が明らかになった。

教育課程に関する調査結果からは、評価等につながる学習等の記録、3観点に基づいた評価の充実、評価や改善点と次の授業への関連性等について課題があることが明確になった。

これらの結果を踏まえ、知的障害教育の経験が比較的浅い教員が児童生徒一人一人の実態等に応じて育成を目指す資質・能力の三つの柱と3観点に基づいた指導と評価の一体化の下、以降の授業（単元）への関連性を意識できるフレームワークを開発することが必要であると考えた。

これらの分析からフレームワークの開発に向けて、

- ア 育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて目標を設定できる
- イ 目標を踏まえて学習評価につながる記録がとれる
- ウ 3観点に基づいて学習評価できる
- エ 学習評価、改善点等を以降の授業（単元）につなげることができる

を意識して開発を進め、令和4年度はフレームワーク（試案）を作成した。

(2) 次年度の予定

次年度は、令和4年度に作成したフレームワーク（試案）を基に、より活用しやすいものに向けて開発を進める。知的障害教育の経験の浅い教員でも目標設定から授業改善までの流れが分かり、効率的に作業ができるフレームワークの作成を目指す。

具体的には、調査研究協力校（9校）においてフレームワーク（試案）を活用し、改善点等を見出すとともに、各シート間の連動機能を付加した効率化に向けて必要な改良を重ねる。併せて、フレームワークの有効性を検証し、年度末に活用方法、有効性等についての説明を含めたフレームワークを千葉県総合教育センターWebサイトで公開し、県内の知的障害特別支援学校及び小学校・中学校・義務教育学校の知的障害特別支援学級担任へ周知するとともに活用について推進を図っていく。

令和4年度 千葉県総合教育センター特別支援教育部調査研究事業
知的障害教育における学習評価から授業改善につなげるフレームワークに関する研究

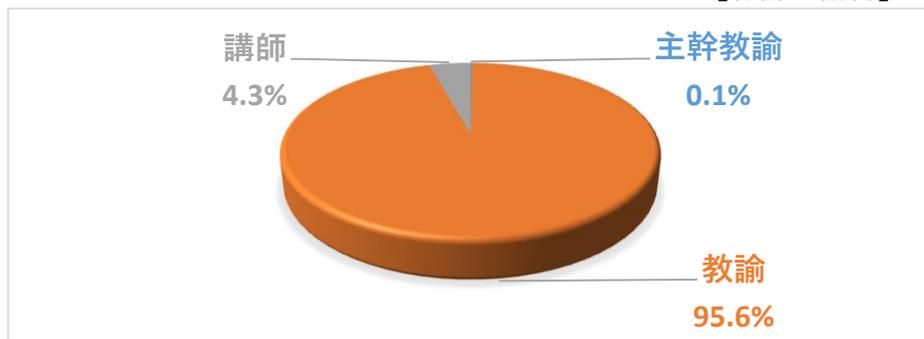
質問紙調査結果

- 1 調査期間 令和4年8月22日（月）から9月30日（金）まで
- 2 調査対象 知的障害特別支援学校：26校（船橋市立船橋、市川市立須和田の丘含む）
市町村立小学校、中学校及び義務教育学校：400校（15市町）
- 3 回収率 95.2%(総回答数 n=958/1,006)
 (1) 特別支援学校：100% 小学部100%(378) 中学部100%(228)
 (2) 小学校・中学校（義務教育学校含む）：88.0%(352/400)
 小学校 90.8%（238/262） 中学校 82.6%（114/138）

I-問2 職名

小学校			中学校			特支（小）			特支（中）			総計		
主幹教諭	教諭	講師	主幹教諭	教諭	講師	主幹教諭	教諭	講師	主幹教諭	教諭	講師	主幹教諭	教諭	講師
0.0%	93.3%	6.7%	0.0%	93.0%	7.0%	0.3%	98.1%	1.6%	0.0%	95.2%	4.8%	0.1%	95.6%	4.3%

【総計の割合】

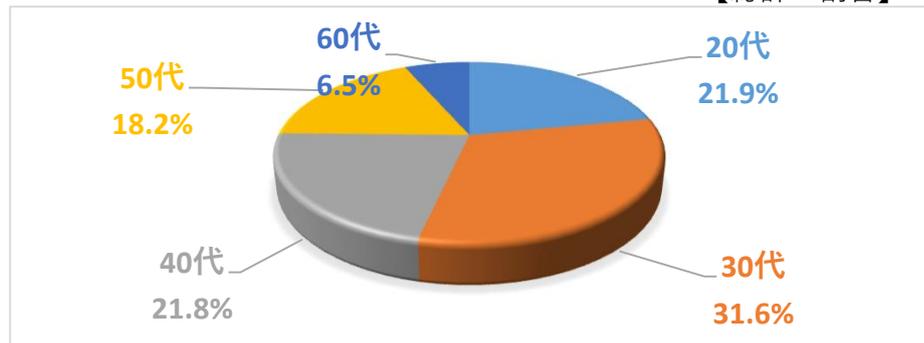


主幹教諭	1
教諭	914
講師	41
	956
無回答	2

I-問3 年代

小学校					中学校					総計				
20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代
11.3%	21.8%	31.1%	23.1%	12.6%	11.5%	26.5%	21.2%	31.9%	8.8%	21.9%	31.6%	21.8%	18.2%	6.5%
特支（小）					特支（中）					総計				
20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代
28.5%	36.0%	19.5%	12.3%	3.7%	27.3%	37.0%	16.3%	15.9%	3.5%	21.9%	31.6%	21.8%	18.2%	6.5%

【総計の割合】

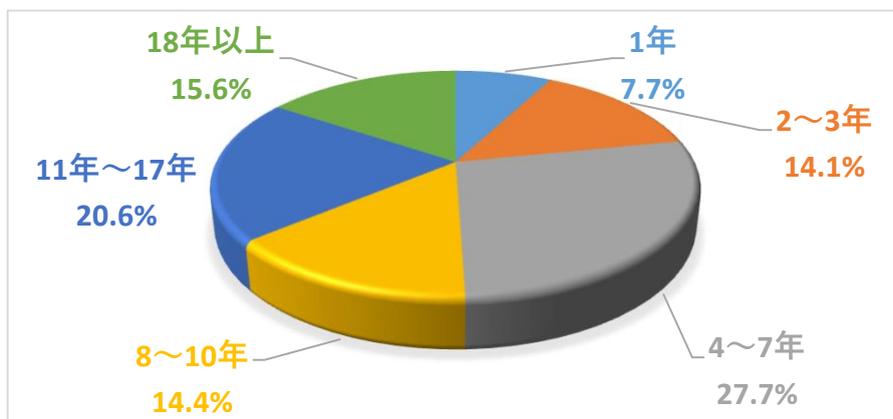


20代	209
30代	301
40代	208
50代	173
60代	62
	953
無回答	5

Ⅰ－問4 知的障害を有する児童生徒への指導の経験年数

小学校						中学校					
1年	2～3年	4～7年	8～10年	11～17年	18年～	1年	2～3年	4～7年	8～10年	11～17年	18年～
15.5%	18.9%	24.4%	10.1%	18.1%	13.0%	14.9%	14.9%	19.3%	14.0%	24.6%	12.3%
特支（小）						特支（中）					
1年	2～3年	4～7年	8～10年	11～17年	18年～	1年	2～3年	4～7年	8～10年	11～17年	18年～
2.9%	14.3%	30.4%	14.3%	21.2%	16.9%	3.9%	8.3%	30.7%	19.3%	20.2%	17.5%
総計											
1年	2～3年	4～7年	8～10年	11～17年	18年～						
7.7%	14.1%	27.7%	14.4%	20.6%	15.6%						

【総計の割合】

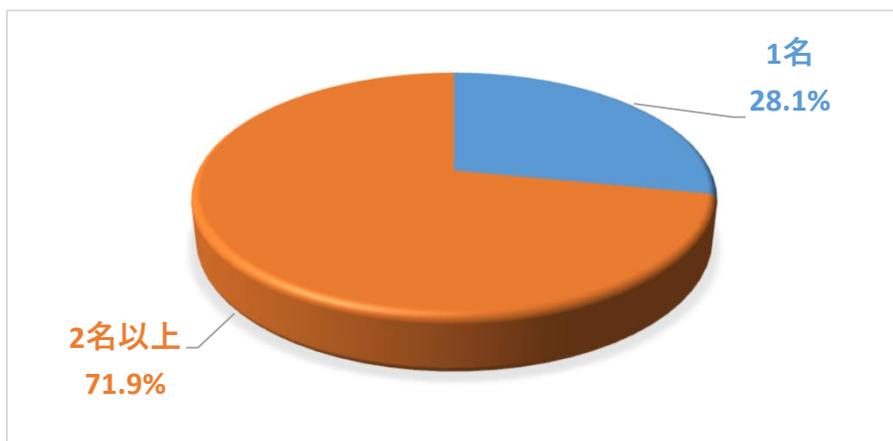


1年	74
2～3年	135
4～7年	265
8～10年	138
11～17年	197
18年以上	149
	958

Ⅰ－問5 回答者を含めて担当する学級は、何名で指導、支援を行っていますか。

小学校		中学校		特支（小）		特支（中）		総計	
1名	2名以上								
73.0%	27.0%	54.4%	45.6%	5.8%	94.2%	5.3%	94.7%	28.1%	71.9%

【総計の割合】

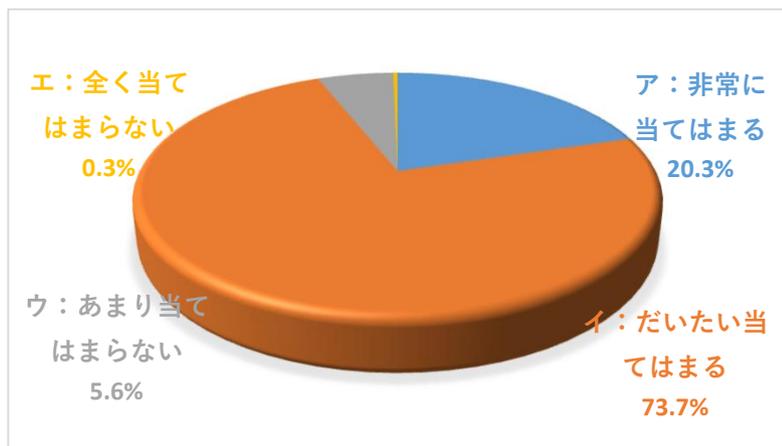


1名	269
2名以上	688
	957
無回答	1

II-問1 各単元における「目指す児童生徒の姿」について授業に関わる教師や職員で共通理解を図っている。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
20.3%	71.2%	7.6%	0.8%	14.9%	74.6%	10.5%	0.0%	22.0%	73.8%	4.2%	0.0%	20.2%	75.9%	3.5%	0.4%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
20.3%	73.7%	5.6%	0.3%												

【総計の割合】

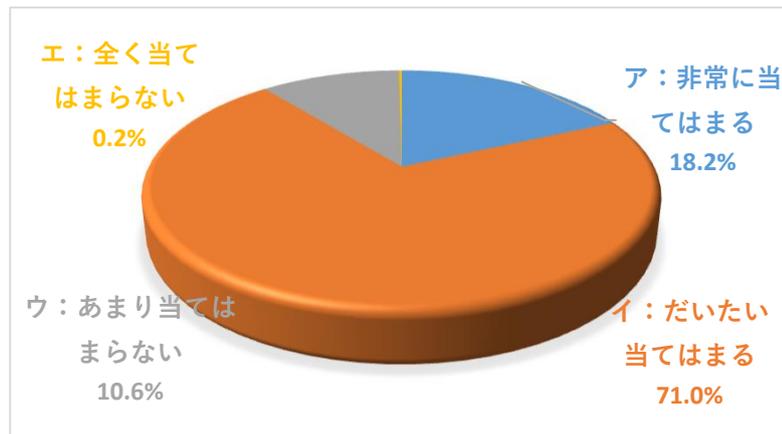


ア：非常に当てはまる	194
イ：だいたい当てはまる	705
ウ：あまり当てはまらない	54
エ：全く当てはまらない	3
	956
	無回答 2

II-問2 単元目標は、育成を目指す資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、
「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って設定している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
15.3%	72.0%	12.7%	0.0%	12.3%	73.7%	13.2%	0.9%	19.6%	69.0%	11.1%	0.3%	21.9%	71.9%	6.1%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
18.2%	71.0%	10.6%	0.2%												

【総計の割合】

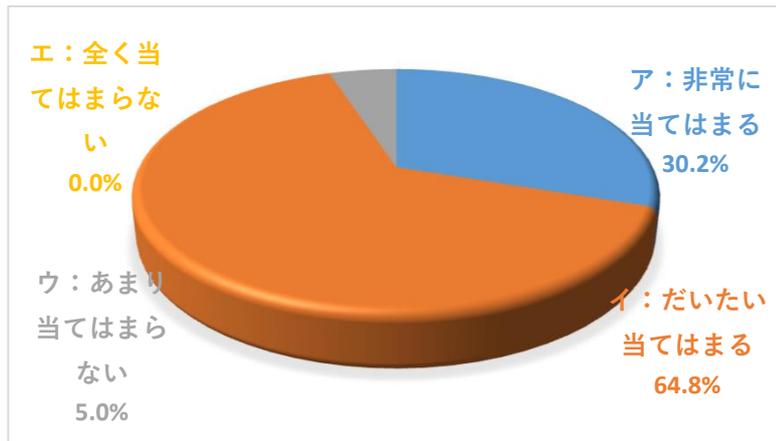


ア：非常に当てはまる	174
イ：だいたい当てはまる	679
ウ：あまり当てはまらない	101
エ：全く当てはまらない	2
	956
	無回答 2

II - 問3 単元計画は、年間指導計画や一人一人の児童生徒の個別の指導計画に記された指導目標を考慮した上で設定している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
34.6%	62.4%	3.0%	0.0%	23.7%	70.2%	6.1%	0.0%	32.5%	62.4%	5.0%	0.0%	25.0%	68.4%	6.6%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
30.2%	64.8%	5.0%	0.0%												

【総計の割合】

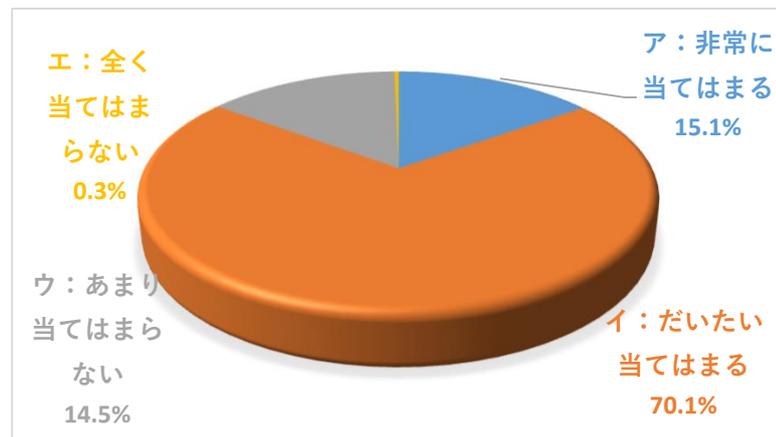


ア：非常に当てはまる	289
イ：だいたい当てはまる	620
ウ：あまり当てはまらない	48
エ：全く当てはまらない	0
	957
	無回答1

II - 問4 単元を構成するときに児童生徒の主体的・対話的で深い学びの視点からの学習を意識した内容を取り入れている。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
14.4%	63.6%	21.6%	0.4%	10.6%	70.8%	17.7%	0.9%	15.4%	72.1%	12.2%	0.3%	17.5%	73.2%	9.2%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
15.1%	70.1%	14.5%	0.3%												

【総計の割合】

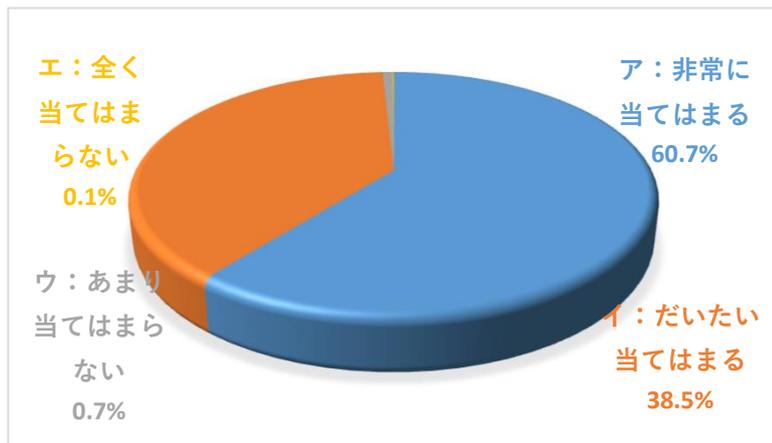


ア：非常に当てはまる	144
イ：だいたい当てはまる	669
ウ：あまり当てはまらない	138
エ：全く当てはまらない	3
	954
	無回答4

II - 問5 児童生徒の実態や障害特性に応じて、授業内容を検討して計画している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
60.3%	38.4%	0.8%	0.4%	52.6%	45.6%	1.8%	0.0%	64.2%	35.3%	0.5%	0.0%	59.2%	40.4%	0.4%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
60.7%	38.5%	0.7%	0.1%												

【総計の割合】

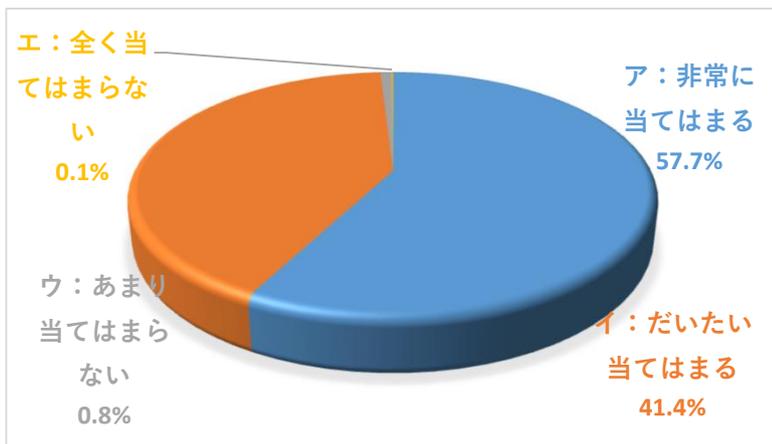


ア:非常に当てはまる	580
イ:だいたい当てはまる	368
ウ:あまり当てはまらない	7
エ:全く当てはまらない	1
	956
	無回答2

II - 問6 児童生徒の実態や障害特性に応じて、手立てを講じて指導している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
57.8%	41.4%	0.4%	0.4%	48.2%	49.1%	2.6%	0.0%	60.9%	38.0%	1.1%	0.0%	57.0%	43.0%	0.0%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
57.7%	41.4%	0.8%	0.1%												

【総計の割合】

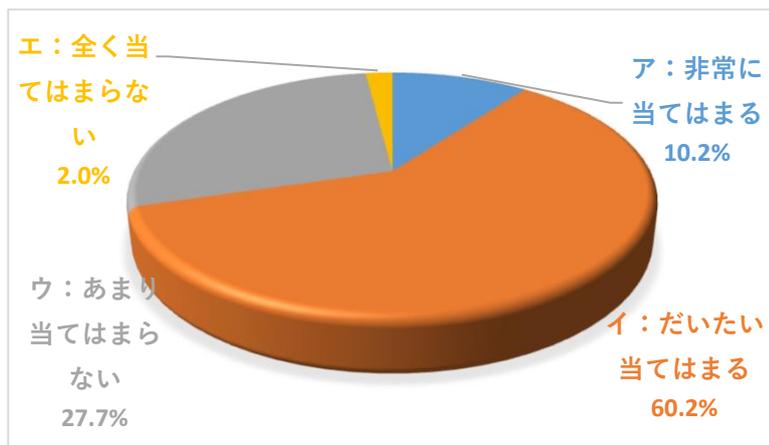


ア:非常に当てはまる	551
イ:だいたい当てはまる	395
ウ:あまり当てはまらない	8
エ:全く当てはまらない	1
	955
	無回答3

II-問7 3観点「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」に沿った各教科のまとめりごとの評価規準、設定した目標に対する評価基準を設けて評価している。

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
11.4%	57.8%	27.4%	3.4%	8.8%	48.2%	37.7%	5.3%	10.9%	61.8%	26.3%	1.1%	8.4%	65.9%	25.2%	0.4%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
10.2%	60.2%	27.7%	2.0%												

【総計の割合】

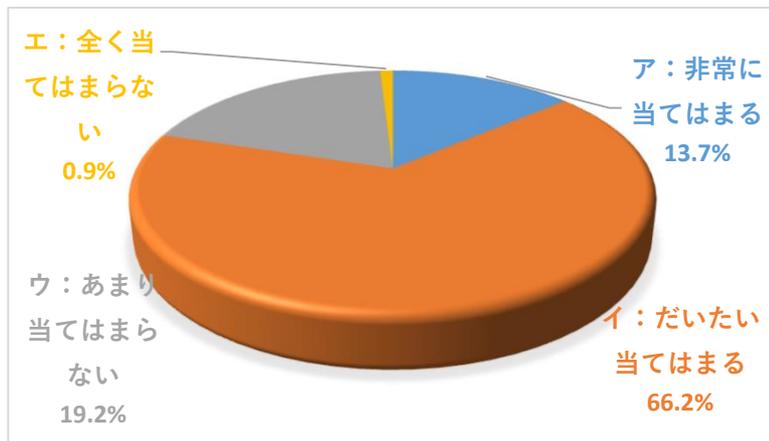


ア: 非常に当てはまる 97
 イ: だいたい当てはまる 574
 ウ: あまり当てはまらない 264
 エ: 全く当てはまらない 19
 954
 無回答4

II-問8 授業で扱う教育内容の目標達成状況が分かるように、一人一人の児童生徒の学習状況を単元ごとに記録するなどして、評価している。

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
13.9%	73.8%	11.4%	0.8%	12.3%	60.5%	25.4%	1.8%	14.3%	64.2%	20.4%	1.1%	13.2%	64.3%	22.0%	0.4%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
13.7%	66.2%	19.2%	0.9%												

【総計の割合】

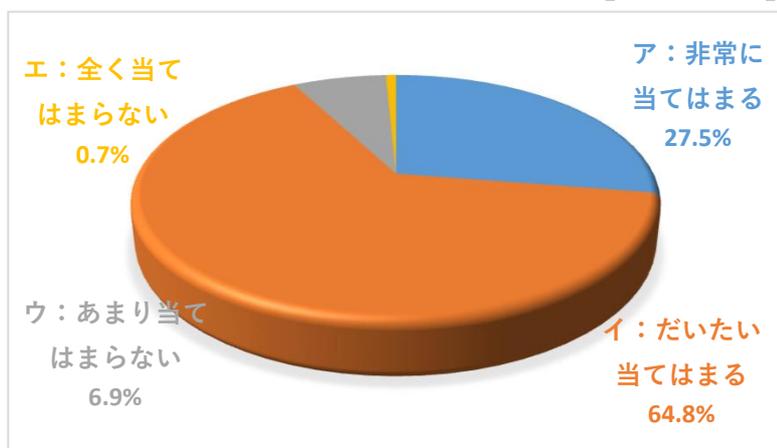


ア: 非常に当てはまる 131
 イ: だいたい当てはまる 632
 ウ: あまり当てはまらない 183
 エ: 全く当てはまらない 9
 955
 無回答3

II - 問9 児童生徒の単元及び授業における学習評価を基に一人一人の個別の指導計画に記載した指導目標の達成状況を評価している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
29.7%	64.4%	5.5%	0.4%	20.4%	66.4%	11.5%	1.8%	28.5%	65.2%	5.6%	0.8%	27.3%	63.9%	8.4%	0.4%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
27.5%	64.8%	6.9%	0.7%												

【総計の割合】

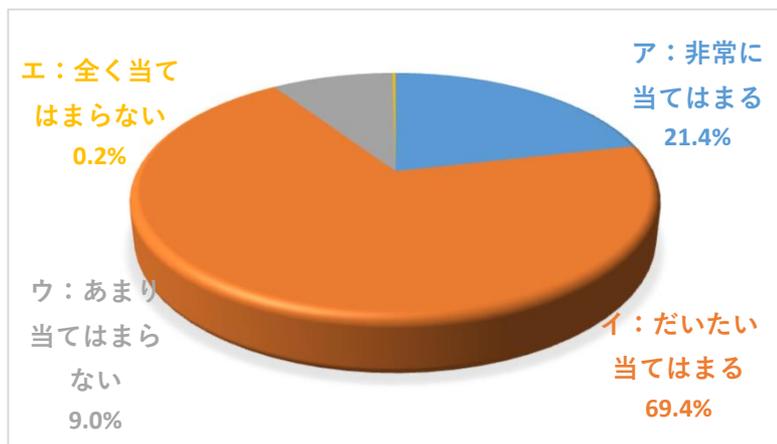


ア: 非常に当てはまる	262
イ: だいたい当てはまる	617
ウ: あまり当てはまらない	66
エ: 全く当てはまらない	7
	952
	無回答6

II - 問10 「学習評価」を基に単元目標や授業計画などが適切であったか、振り返りをしている。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
18.2%	72.9%	8.9%	0.0%	15.8%	71.9%	10.5%	1.8%	26.3%	67.0%	6.6%	0.0%	19.4%	68.3%	12.3%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
21.4%	69.4%	9.0%	0.2%												

【総計の割合】

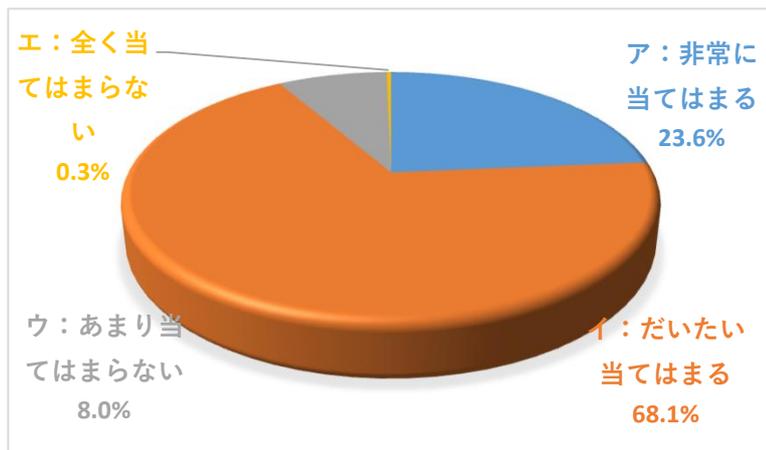


ア: 非常に当てはまる	204
イ: だいたい当てはまる	661
ウ: あまり当てはまらない	86
エ: 全く当てはまらない	2
	953
	無回答5

II - 問11 問10の振り返りを以降の単元計画等の修正、授業づくりに反映している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
20.4%	70.6%	8.9%	0.0%	19.3%	67.5%	11.4%	1.8%	24.7%	68.6%	6.4%	0.3%	27.3%	64.8%	7.9%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
23.6%	68.1%	8.0%	0.3%												

【総計の割合】

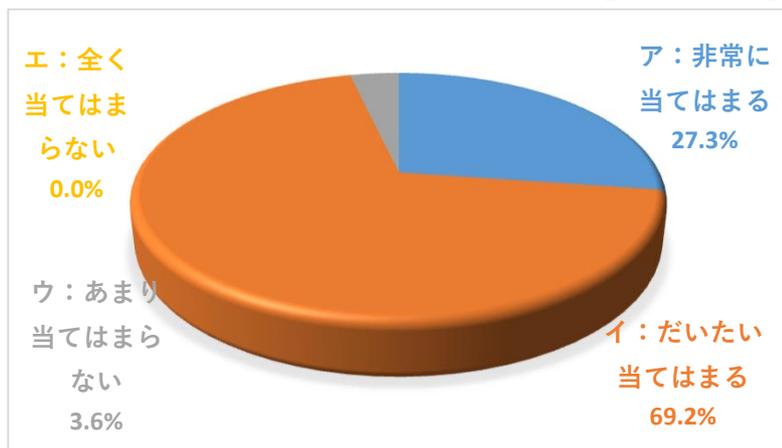


ア：非常に当てはまる	225
イ：だいたい当てはまる	648
ウ：あまり当てはまらない	76
エ：全く当てはまらない	3
	952
	無回答6

II - 問12 授業後に目標設定や手立てなどが適切であったか振り返りを行い、次の授業に反映させている。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
25.0%	71.2%	3.8%	0.0%	19.5%	77.0%	3.5%	0.0%	31.0%	66.8%	2.1%	0.0%	27.3%	67.0%	5.7%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
27.3%	69.2%	3.6%	0.0%												

【総計の割合】

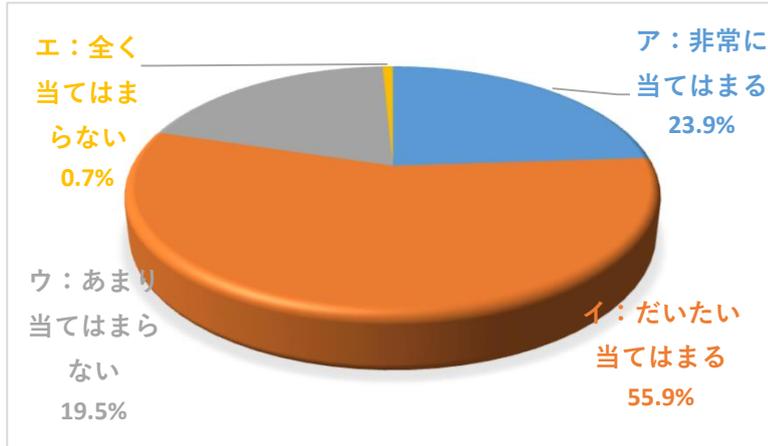


ア：非常に当てはまる	260
イ：だいたい当てはまる	659
ウ：あまり当てはまらない	34
エ：全く当てはまらない	0

II－問13 学習評価、単元の振り返り、授業改善について教職員間で共通理解する機会を確保している。

小学校				中学校				特支（小）				特支（中）			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
16.8%	49.1%	32.3%	1.7%	19.5%	46.9%	31.0%	2.7%	28.1%	62.8%	9.1%	0.0%	26.5%	55.8%	17.7%	0.0%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
23.9%	55.9%	19.5%	0.7%												

【総計の割合】



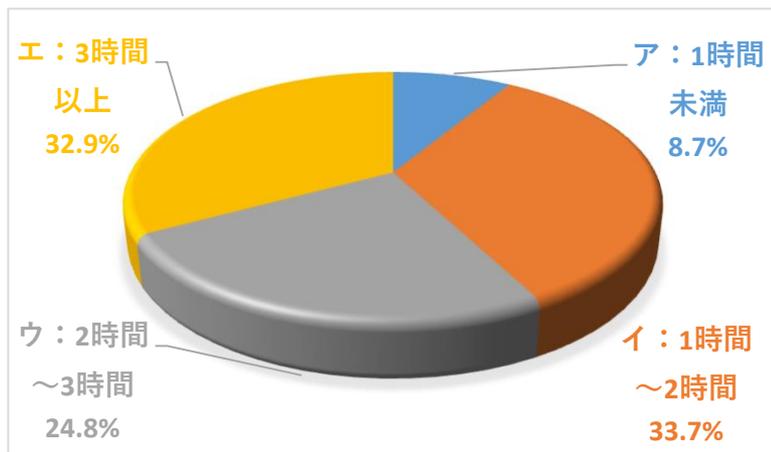
ア：非常に当てはまる	226
イ：だいたい当てはまる	528
ウ：あまり当てはまらない	184
エ：全く当てはまらない	7
	945
	無回答13

II－問14 各単元における計画にどのくらいの時間をかけていますか。

(1単元あたりの総時間)

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
19.1%	39.1%	21.3%	20.4%	14.4%	43.2%	21.6%	20.7%	3.0%	33.1%	26.9%	37.1%	4.4%	24.2%	26.4%	44.9%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
8.7%	33.7%	24.8%	32.9%												

【総計の割合】



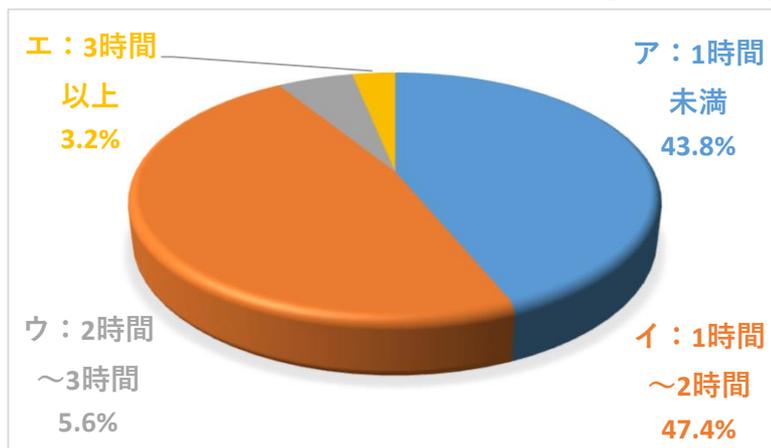
ア: 1時間未満	82
イ: 1時間～2時間	318
ウ: 2時間～3時間	234
エ: 3時間以上	311
	945
	無回答13

II－問15 各単元における振り返りにどのくらいの時間をかけていますか。

(1単元あたりの総時間)

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
52.4%	40.8%	3.9%	3.0%	51.3%	38.1%	7.1%	3.5%	42.1%	48.5%	5.9%	3.5%	34.1%	57.1%	6.2%	2.7%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
43.8%	47.4%	5.6%	3.2%												

【総計の割合】



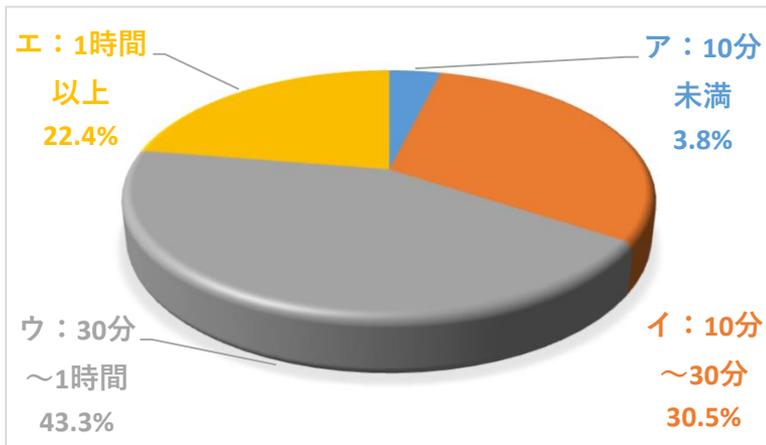
ア: 1時間未満	414
イ: 1時間～2時間	448
ウ: 2時間～3時間	53
エ: 3時間以上	30
	945
	無回答13

II－問16 各授業における計画にどのくらいの時間をかけていますか。

(1授業あたりの総時間)

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
7.7%	47.7%	34.0%	10.6%	5.3%	31.9%	51.3%	11.5%	1.6%	26.9%	47.0%	24.5%	2.6%	18.1%	42.7%	36.6%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
3.8%	30.5%	43.3%	22.4%												

【総計の割合】



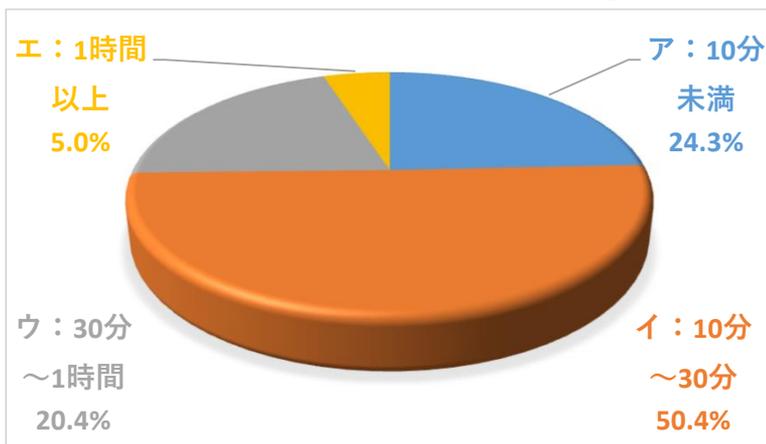
ア: 10分未満	36
イ: 10分～30分	289
ウ: 30分～1時間	410
エ: 1時間以上	212
	947
	無回答11

II－問17 各授業における振り返りにどのくらいの時間をかけていますか。

(1授業あたりの総時間)

小学校				中学校				特支(小)				特支(中)			
ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ
37.2%	48.7%	11.1%	3.0%	22.1%	54.9%	21.2%	1.8%	20.3%	52.1%	21.1%	6.4%	18.6%	46.9%	28.3%	6.2%
総計															
ア	イ	ウ	エ												
24.3%	50.4%	20.4%	5.0%												

【総計の割合】

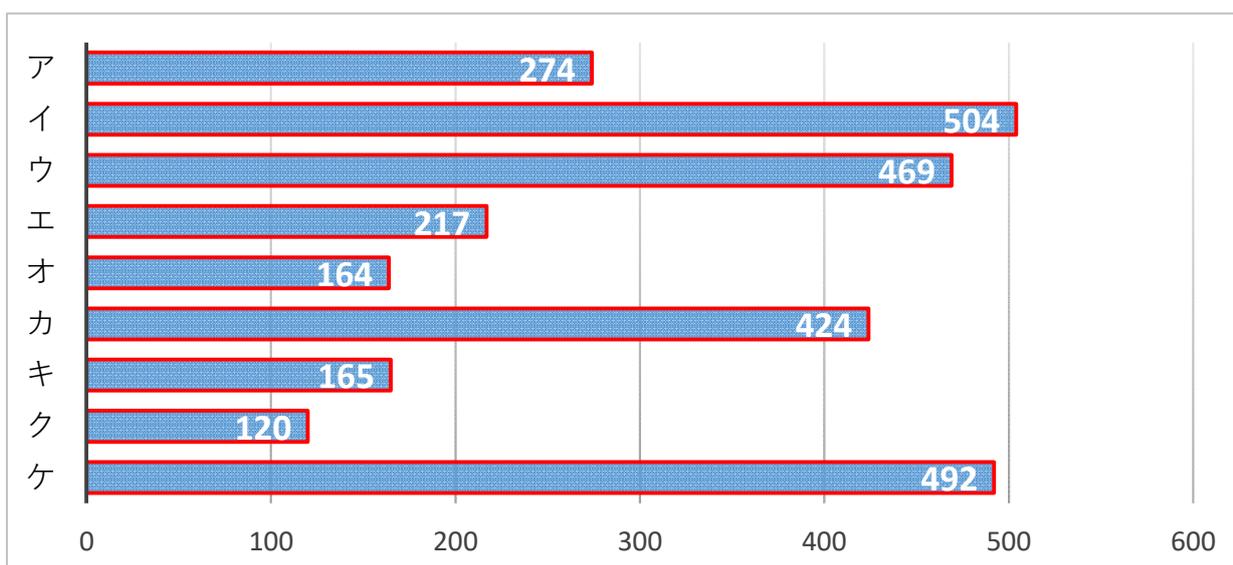


ア: 10分未満	230
イ: 10分～30分	477
ウ: 30分～1時間	193
エ: 1時間以上	47
	947
	無回答11

II－問18 学習評価から授業改善につなげるにあたって必要だと思われることについて
優先度の高いもの三つを選択してください。

小学校									中学校								
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
73	147	131	41	30	121	25	17	123	33	56	61	25	13	53	20	19	59
特支（小）									特支（中）								
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ
100	185	188	106	65	156	74	48	193	68	116	89	45	56	94	46	36	117
総 計																	
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ									
274	504	469	217	164	424	165	120	492									

【総計の回答数】



- ア 単元を計画する上で、P D C Aサイクルが具体的に示されるとよい。
- イ 単元を計画する上で、一人一人の児童生徒の単元目標と個別の指導計画の目標のつながりが分かるとよい。
- ウ 児童生徒の授業での様子や経過が整理、記録できるとよい。
- エ 単元目標及び計画を振り返り、単元の評価点と改善点がまとめられるとよい。
- オ 単元目標及び計画に関する評価点、改善点と以降の単元の関連が整理できるとよい。
- カ 単元における支援や手立てを振り返り、評価点や改善点と以降の単元の関連が整理できるとよい。
- キ 授業ごとに計画を振り返り、授業の評価点と改善点がまとられるとよい。
- ク 毎授業の評価点や改善点と以降の授業の関連が整理できるとよい。
- ケ 授業における支援や手立てを振り返り、評価点や改善点と以降の授業の関連が整理できるとよい。